



チアガール

「綾子さん」

「なに、タックくん？」

「今回のメロンブックスのコミカライズ連動特典のイラスト、素晴らしい——」

「やめてええええ！」

「え？」

「やめてやめて！ 私、チアガール衣装なんて着てないから！ 三十すぎたおばさんがそんなヤバい格好したりしないから！」

「いやでも、実際にイラストが……」

「それは……アレよ。東先生が独断で描いたものってことにしましょう。コミカライズサイドの一方的な解釈で、原作サイドはノータッチってことで。解釈違いってことで」

「いや、原作サイドもバッチリ監修した結果なので……」

「うう……だ、だって着てないもん。こんなの私、着たことないもん……」

「まあ確かに本編では着てないですけど」

「そう。着てないのよ」

「でもまあ……原作では着たことない衣装のイラストをいただいたら、それは後付けで着たことになるっていうか。そのイラストに合わせて『実は本編の裏で、こんな衣装を着たこともあったよね』的なエピソードを補足して考えるのが、この手の特典関連のSSの務めと言いますか……」

「知らない知らない、そんな業界の慣習は知らない……」

「担当編集さんから『タックくんの受験勉強をチアガールで応援する綾子ママ、とかどうでしょうか？』ってエピソードも提案してもらいましたし、それ採用しようかと思ってたんですけど」

「却下！ なんで私、受験勉強の応援でチアガールになるの!？」

「……綾子さんならやりそうな気も」

「どういうキャラなの、私!？」

「ていうか綾子さん、今更チアガールが恥ずかしいんですか？ ラブカイザーのコスプレとか美羽の制服とか……恥ずかしい格好なんて本編で山ほどやってきてるのに……」

「だ、だからって羞恥心を失ったらおしまいでしょう？ こういう扱いに慣れてきたからって、拒絶の意思を示さなくなったらますます扱い悪くなりそうです……」

「じゃあ、どんなエピソードならいいんですか？」

「……よし。全部タックくんの妄想ってことにしましょう。タックくんが一人で勝手に私のチアガールを妄想したってことで。夢オチで万事解決」

「お、俺に責任丸投げ……」